

新春のえびなを歩く

海老名には、市内の史跡や歴史などを詠んだいろはかるた、「海老名郷土かるた」があります。今号では郷土かるたの中から、ことしの干支である巳にちなみ、「み」の詠み札ゆかりの地を含む、約1万歩、所要時間約2時間程度のコースをご紹介します。※距離と時間は参考です。新年のすがすがしい空気と海老名の歴史を感じながら歩いてみませんか？ あなただけの、新しい海老名の魅力を見つけてください。「海老名郷土かるた」は、市役所地下売店にて1組1000円で販売中。



1 大島記念公園

公園の北にある海源寺には、市文化財の大島豊後守正時坐像があります。正時は、室町時代の安房の国(千葉県)の武将でしたが、海老名の領主海老名広治の招請により、領地争いの救援のため海老名にやってきましたといわれています。その後、血筋が絶えた海老名氏に代わり、この地を領有するようになったとされ、現在に至るまでその家系を保っています。公園名は、子孫である大島氏が屋敷の一部を市に寄付したことによるもので、園内には大島氏の由来を刻んだ記念石碑が建っています。敷地面積は約1,600平方メートル。



▲著名な教育者・大島正健氏の生家跡としても知られています

2 今福薬医門公園

平成16年5月、海老名市の旧家のひとつである今福家より、旧屋敷跡の一部が市に寄贈されました。嘉永6年(1853)に新築上棟された総檜造りの表門や、弘化4年(1847)に建てられた3階建ての文庫蔵は、歴史的建造物としても貴重な遺構です。また、園内には四季折々50種類以上の草花が咲き、訪れる人々に癒しの空間を与えてくれます。

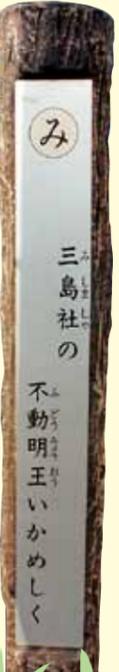


▲緑に囲まれた今福薬医門公園。静かで安らぐ場所です

3 三島社

郷土かるた／み『三島社の 不動明王 いかめしく』

祭神は大山祇命(おおやまつみのみこと)です。ご神体は武者姿の画像でしたが、昭和23年2月9日の火災で焼失してしまいました。祭神の本仏地は、「新編相模国風土記稿」によると、天保年間(1830~43)には薬師如来であったとされます。境内にはかつて、正徳4年(1714)に粉川市正が鑄造した供鐘がありました。ご神木は周囲約8.5mのツキノキで、中の空洞には大蛇が住んでいたとの伝承がありましたが、現在は枯れてしまい残っていません。境内に向かう参道には数本のクスノキとムクノキがあり、神社の裏手に廻ると、自然緑地保全樹木に指定されている、見事なマキの大木があります。



◀かるたのよみことばが記された凝木柱が設置されています

